

企業概要

事業内容 道の駅や観光船などの管理運営
設立 2006年11月
本社所在地 愛媛県今治市大浜町1丁目
拠点 よしみいきいき館、マリンオアシス伯方、多々羅しまなみ公園、よしうみローズ館



STEP1 脱炭素について知る

脱炭素関連の進め方をご説明し、現状等をヒアリング

取組意義

- 観光地として脱炭素に取組、PRしていきたい
- まず排出量を算定・把握し、予算内でできるだけ取り組みたい

取組課題

- 自社でどれほどCO2を排出しているか分からない
- 遊覧船は更新や燃料転換が困難



STEP2 自社排出量を測る

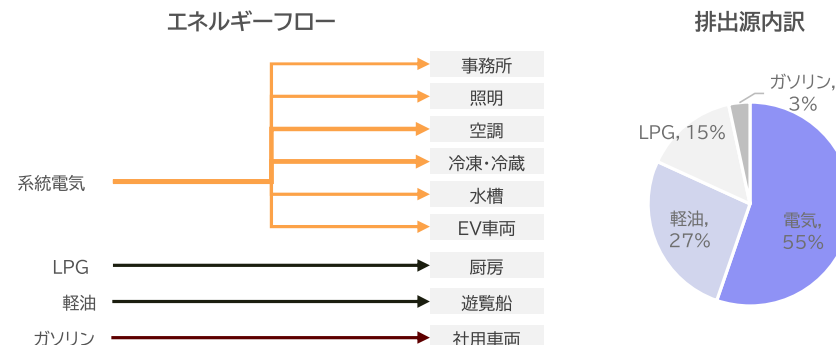
2023年度の企業活動によって排出された温室効果ガス量の合計は655t-CO2でした。
自社で使用する燃料由来のCO2排出量(Scope1)が293t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量(Scope2)が655t-CO2です。



STEP3 自社排出量を減らす

✓ 排出源の特定と施策洗い出し

現場視察で既存設備を洗い出し、使用エネルギーと検討可能な削減施策を整理しました。



✓ 検討施策のご紹介



遊覧船の自動運転

自動運転にすることで無駄なエネルギー消費を削減できないか検討中です。



空調の更新

まずガス空調を電化し、他にも古い空調は順次更新していきます。



太陽光パネル設置

電気消費による排出を大幅に削減するとともに、PR効果も期待しています。

✓ 削減ロードマップ

EVIはまず一台から導入し、徐々に増やして電化を進め、長期的には遊覧船の電化も検討します。

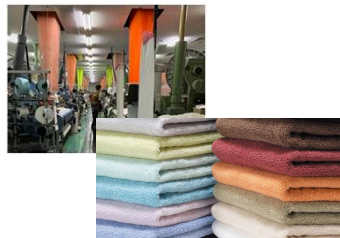
施策	カテゴリ	計画期間(年度)						
		2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
EVの導入	電化							
厨房の電化	電化							
空調の更新	効率化							
遊覧船の運転自動化	省エネ							
太陽光発電設備の導入	再エネ化							
再エネプランへの切替	再エネ化							

脱炭素伴走支援を受けてみて

排出量を算定してみて、遊覧船に使用している軽油からの排出量が多いことに気づき、遊覧船運転自動化による省エネについての検討を進めている。

企業概要

事業内容 タオル製品製造及び販売
設立 1985年8月
本社所在地 愛媛県今治市富田新港
拠点 本社、配送センター、サンプル工場



STEP1 脱炭素について知る

脱炭素関連の進め方をご説明し、現状等をヒアリング

取組意義

- 環境への取組の必要性が増していると感じている
- 脱炭素の取組を消費者へのPRにつなげたい
- 既にリサイクル等に取組中

取組課題

- 脱炭素の取組として何をすればいいのかわからない。日頃の取組が脱炭素に関連しているとは知らなかった
- コストの問題で設備の更新を保留にしている



STEP2 自社排出量を測る

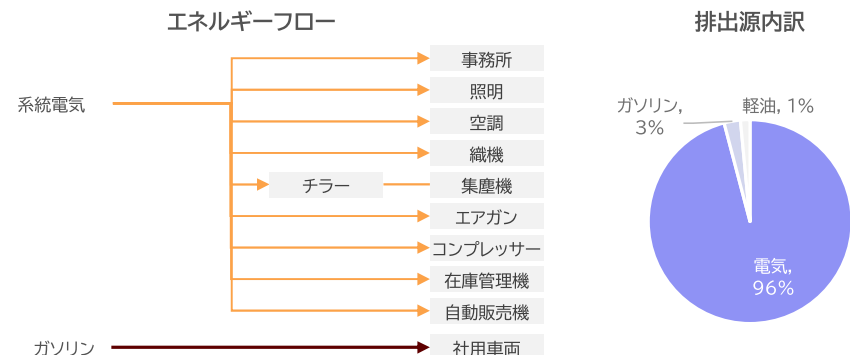
2023年度の企業活動によって排出された温室効果ガス量の合計は392t-CO2でした。
自社で使用する燃料由来のCO2排出量(Scope1)が16t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量(Scope2)が376t-CO2です。



STEP3 自社排出量を減らす

✓ 排出源の特定と施策洗い出し

現場視察で既存設備を洗い出し、使用エネルギーと検討可能な削減施策を整理しました。



✓ 検討施策のご紹介



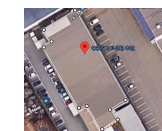
空調の更新

前々から更新予定としていた設備を対象に改めて省エネの観点で更新計画。



チラーのファン清掃

エネルギー効率の向上に向け、チラーの清掃が必要であると気づきました。



太陽光パネル設置

最も割合の多い電気消費による排出を大幅に削減できる見込みがあります。

✓ 削減ロードマップ

設備の更新を積極的に進めてエネルギー効率化を図りながら、省エネを徹底します。

施策	カテゴリ	計画期間(年度)						
		2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
空調の更新	効率化		→					
チラーのファン清掃	効率化							
LED化	効率化		→					
空調の運用改善 (設定温度の管理)	省エネ							
太陽光発電設備の設置	再エネ化							

脱炭素伴走支援を受けてみて

自社排出量の削減余地は少ないが、排出量算定の考え方を学び、何に焦点を当てて取組を進めれば良いか検討できた。また、改めて設備更新を見直すきっかけとなった。

企業概要

事業内容 今治タオルの企画・製造・販売
設立 2015年7月7日
本社所在地 愛媛県今治市旭町
拠点 喜田村工場、喜田村倉庫、蔵敷倉庫、高市倉庫、桜井倉庫



STEP1 脱炭素について知る

脱炭素関連の進め方をご説明し、現状等をヒアリング

取組意義

- ・ サステナブルな商品開発だけでなく、会社全体の脱炭素化を進める必要性を感じている
- ・ 商品への付加価値としても取組を強化したい

取組課題

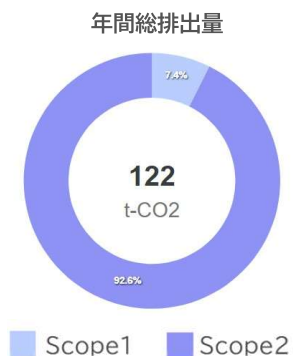
- ・ サステナブルな製品開発に取り組んでいたが、自社の排出量削減には取り組めていなかった
- ・ 削減施策は種類が限られており、コストも高い



STEP2 自社排出量を測る

2023年度の企業活動によって排出された温室効果ガス量の合計は122t-CO2でした。

自社で使用する燃料由来のCO2排出量(Scope1)が9t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量(Scope2)が113t-CO2です。



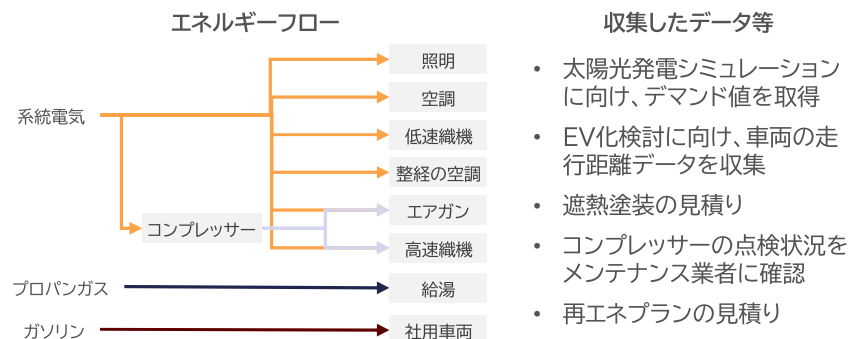
排出量の内訳

排出起源	排出量
ガソリン	8.9 t-CO2
LPG	0.1 t-CO2
電気	112.8 t-CO2

STEP3 自社排出量を減らす

✓ 排出源の特定と施策洗い出し

現場視察で既存設備を洗い出し、使用エネルギーと検討可能な削減施策を整理しました。



✓ 検討施策のご紹介



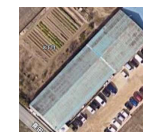
空調の更新

老朽化した空調を最新式に更新することで、エネルギー効率が向上します。



コンプレッサー点検

大きなエネルギーロスが生むエア漏れを未然に防ぎます。



太陽光パネル設置

最も割合の多い電気消費による排出を大幅に削減できる見込みがあります。

✓ 削減ロードマップ

減らせる分はできるだけ減らし、どうしても削減できない部分についてのみオフセットを検討

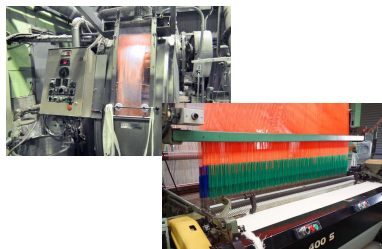
施策	カテゴリ	計画期間(年度)						
		2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
空調の更新	効率化							
コンプレッサーの運用改善	効率化							
屋根の遮熱	効率化							
太陽光発電設備の導入	再エネ化							
再エネプランへの切替	再エネ化							
クレジットの購入	オフセット							

脱炭素伴走支援を受けてみて

自社排出量について理解し、これからの脱炭素に向けた取組の方向性を描くことができた。排出量を実質的に減らしていくため、他拠点についても検討したい。

企業概要

- 事業内容**
- ・染色加工
 - ・繊維製品企画製造販売
- 設立** 1968年11月
- 本社所在地** 愛媛県今治市南大門町
- 拠点** 本社工場、渋谷店、峠店



CFP算定取組

対象商品の紹介

におわないバスタオル



生乾き臭や汗のにおいを抑制するタオルで、国内外でリピーターが続出する人気の商品です。軽量であるため水や電力の消費削減になります。

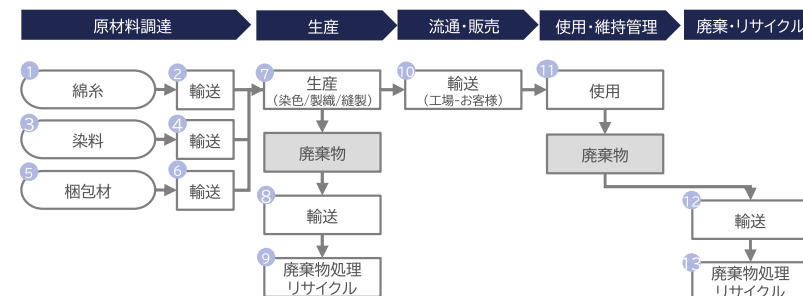
エコな商品であることを定量的に表し、排出量削減に向けた示唆を得るためにこの商品を選定しました。



算定

✓ ライフサイクルフロー図

対象商品のライフサイクルにおける工程を洗い出し



✓ 算定結果

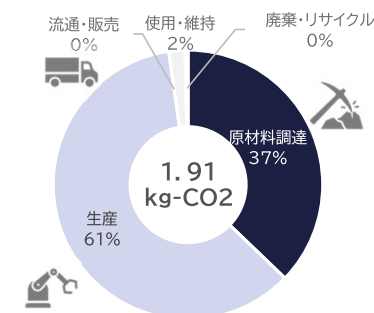
「におわないバスタオル」1枚あたりのカーボンフットプリントは、**1.91kg-CO2**でした。

・生産-61%

最優先の取組対象の排出源は主に電気であるため、再エネ化を進めることで削減できます。生産過程の排出削減は、他製品との差別化にもつながります。

・原材料調達-37%

原材料調達過程での排出のうち85%は綿糸の生産である。オーガニックコットンなど低炭素製品の選択が削減につながります。



脱炭素伴走支援を受けてみて

省エネには長年にわたって取り組んできたが、CFP算定は目新しい取組だった。生産工程を細分化して削減方法を検討できるようになった。サプライチェーン全体での取組にもつながりたい。

STEP1 脱炭素について知る

脱炭素関連の進め方をご説明し、現状等をヒアリング

取組意義

- ・エネルギーロスの削減
- ・商品PRIにつながることも積極的に取組

取組課題

- ・できる省エネ対策はすべてやりつくし、他に何をすべきか分からない
- ・削減目標の達成が困難
- ・サプライチェーンへの取組普及



STEP2 自社排出量を測る

2023年度の企業活動によって排出された温室効果ガス量の合計は1,907t-CO2でした。自社で使用する燃料由来のCO2排出量(Scope1)が1,824t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量(Scope2)が83t-CO2です。



排出量の内訳

排出起源	排出量
都市ガス	1,799.6 t-CO2
軽油	21.6 t-CO2
ガソリン	3.2 t-CO2
電気	83 t-CO2

企業概要

事業内容	貨物船やケミカル船など様々な船種、船型の開発・建造
設立	1967年12月
本社所在地	愛媛県今治市吉海町本庄
拠点	本社工場



STEP1 脱炭素について知る

脱炭素関連の進め方をご説明し、現状等をヒアリング

取組意義

- ・省エネによる経費削減
- ・取組をPRしたい
- ・自社でどのくらいの排出量を出しているのか把握したい

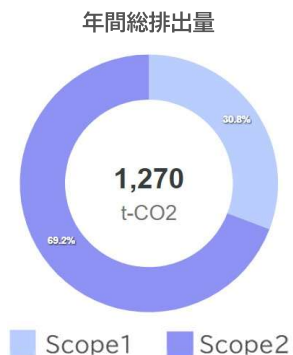
取組課題

- ・社内での脱炭素意識はあまり高くない
- ・社内における脱炭素への理解が進んでいない
- ・コスト増でしかない施策もある



STEP2 自社排出量を測る

2023年度の企業活動によって排出された温室効果ガス量の合計は1,270t-CO2でした。自社で使用する燃料由来のCO2排出量(Scope1)が391t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量(Scope2)が879t-CO2です。



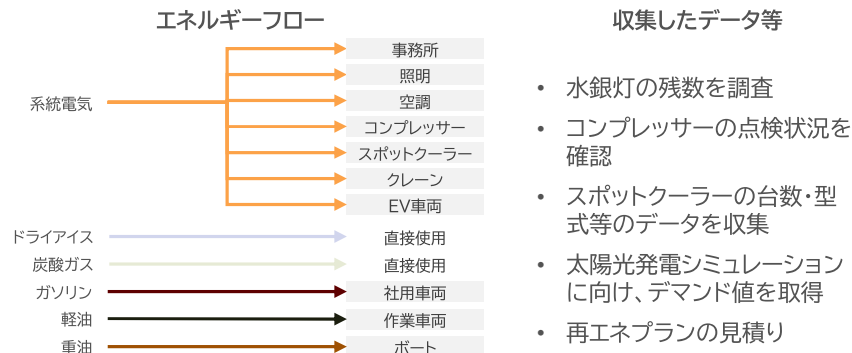
排出量の内訳

排出起源	排出量
炭酸ガス	338.2 t-CO2
軽油	42.8 t-CO2
ガソリン	5.8 t-CO2
A重油	4.4 t-CO2
ドライアイス	0.1 t-CO2
電気	879.1 t-CO2

STEP3 自社排出量を減らす

✓ 排出源の特定と施策洗い出し

現場視察で既存設備を洗い出し、使用エネルギーと検討可能な削減施策を整理しました。



✓ 検討施策のご紹介



コンプレッサー点検

点検方法をエア漏れ音のチェックから、定期的なメンテナンスに強化します。



スポットクーラーの更新

設備はできるだけ長く使っていますが、定期的な更新を推奨していきます。



太陽光パネル設置

最も割合の多い電気消費による排出を大幅に削減できる見込みがあります。

✓ 削減ロードマップ

設備のメンテナンスを強化し、古い設備は順次更新することで、エネルギー効率化を図ります。

施策	カテゴリ	計画期間(年度)						
		2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
水銀灯のLED化	効率化		→					
コンプレッサーの運用改善	効率化							
スポットクーラーの更新	効率化		→					
太陽光発電設備の導入	再エネ化							
再エネプランへの切替	再エネ化							

脱炭素伴走支援を受けてみて

予想以上に自社排出量が多く驚きました。コンプレッサーのエア漏れ点検や、設備の定期的な更新、再エネプランの利用など、排出量削減のためにすべきことについての気づきがありました。